

レポーター：これは随分おっきな絵画ですね。

学芸員：はい、そうですね。

レポーター：これはどちらの国の絵なんですか。

学芸員：これはフィリピンの絵なんです。

レポーター：ん～、フィリピン。どこか西洋的な感じのする絵ですよ。

学芸員：そうですね。なんか、どうですか、フィリピンと言って何か思い出すものって何かありますか。

レポーター：ええ～。なんだろう。ぱっとはちょっと思い浮かばないんですけど、何か。

学芸員：何かあります、フィリピンって。

レポーター：何かありますか、何だろう。

学芸員：すいませんね。変な質問をして。

レポーター：何かありますか。ごめんなさい。

学芸員：ははは。フィリピン。

レポーター：フィリピン。

学芸員：はい。

レポーター：フィリピンと聞いて。

カメラ：食べ物でもいいですよ。

レポーター：食べ物。

学芸員：うん、食べ物。

レポーター：食べ物—お。

学芸員：うん。

レポーター：何があるんだろう。

学芸員：なかなか思い出さないですよ。

レポーター：うん。

学芸員：意外にフィリピンって、近い国なんですけども、意外になんかあんまりこうイメージがないかもしれないですね。

レポーター：ないですね。あったかい国。

学芸員：あったかい。

レポーター：南国みたいな、そんなイメージです。

学芸員：そうです。

レポーター：あはははは。

学芸員：昔はそうフィリピンのすごい島がいっぱいあるんですね。で、あるところにいったら、すごくビーチがですね、綺麗なところがあって、ものすごく海がきれいな場所なんですね。で、ここにはですね、何かそんなことはあんまり描かれてい

ないんですけど、実はこれ、パッと見て、これが、フィリピンの絵だなんていうのは、実はなんとなく色んなヒントがあります。例えば一番わかりやすいのは右下の宣教師、キリスト教のですね、描かれています。日本にも例えばフランシスコザビエルとか来ますけど、フィリピンにも行ったんですね。で、実はフィリピンはアジアの国の中で、最もキリスト教徒、特にカトリックなんですけども、が、多い国なんです。

レポーター：そうなんですね。

学芸員：で、今、例えば日本とかその周りの国は、例えば仏教であるとかイスラム教のですね。あるいは、インドだったらヒンドゥー教なんですけど、フィリピンだけは、実は多分、今、8割9割くらいは、もうキリスト教徒。一部がイスラム教徒なんですね。

レポーター：そういったのを表している絵になるんですか。

学芸員：これは、実はですね、これは、フィリピンの一種のこう歴史を描いた歴史画と言われるものなんですね。

レポーター：へえ〜。いつ頃に描かれたものなんですか。

学芸員：これは今から50年ほど前ですかね。

レポーター：結構、最近ですよ。

学芸員：最近といえば、最近ですね。ただ第2次世界大戦が終わってから、それまでは、実はフィリピンというのは、スペインとかアメリカの植民地だったんですね。で、だけど、第2次世界大戦が終わって、じゃあ、今度は自分たちの力で、フィリピンという国を作ろう、っていう風な時代に描かれた作品なんです。

レポーター：ふうーん。

学芸員：で、実はここに描かれているのは、そのフィリピンの歴史で時間が昔から新しくなっていくんですけど、一番古いのがこの左端です。これは、実はフィリピンの島にはだいたい、南の方からマレー系のなんかの人たちがやって来るんですね、船に乗って。で、その時はイスラム教でした。はい。しばらく経つと、今度はスペイン、右端ですね。スペインからカトリックの宣教師がたくさんやって来ます。で、それで、その結果、フィリピンというのは今すごくキリスト教が多い国なったんですけど。その後、真ん中にいる子供、いますよね。あれはホセ・リサールというフィリピンでいったら、日本で言えば誰になるかな。フィリピンの独立の父みたいな人なんですね。ものすごく有名な人なんですけど、結局、彼は最終的にはスペインの政府によって処刑されてしまいます。今、こんなかわいい子供なんですけど、その、すごく若いんですよ、30くらいかで処刑されてしまう。その後に、実はフィリピンにはアメリカの人たちがたくさんやって来ます。特に学校の先生たちがいっぱい来たんです。その様子が描かれています。

レポーター：学校の先生たちの絵なんですね。

学芸員：そうなんです。今から 100 年ほど前なんですけども、今フィリピン実際行く  
とすごく面白いんですけど、さっき言われたみたいに、あつたかい南の島で、海が  
綺麗なんですけど、行けばだいたいキリスト教徒って行って、教会もいっぱい、あ  
りますね。で、だけどそれと同時にすごいアメリカっぽい、たとえばバスケットボ  
ールが盛んであったりとか、みんな英語もべらべらにしゃべるし、すごくミックス  
されてるんですよ。イスラムも当然いますし、そういう国なんですね。やっぱこ  
の絵はある意味そういう風なフィリピンの何かこう、何とかな、歴史ではある  
んですけども、同時に今のフィリピンというものも少し映し出している作品です。

レポーター：そうなんですね。まさかこの一枚の大きな絵画から、フィリピンの歴史  
をたどる事ができるなんて、初めて知りました。

学芸員：あとですね、これ、またちょっと、今ちょっと思い出したんですけど、これ  
実は元々、こういう風な、どうかな、額に入った絵として描かれたわけじゃな  
いんです。つまり、横見て頂くと、なんかちょっと汚く切られたみたいな感じ。

レポーター：あー、確かに布の上に貼ったような。

学芸員：見えますよね。これは元々は、ここじゃなくて、人の家の壁に貼られていた  
壁画なんです。

レポーター：壁なんですか、これ。

学芸員：元々はね。

レポーター：へえー。

学芸員：それをよしよしよしよして取って、綺麗に取って、こういった額に入れた状態  
がこれなんです。

レポーター：確かにここ、ちょっとつなぎ目がありますよね。

学芸員：それはこんなに大きな布が、フィリピン、その時手に入らなかったの、つ  
なぎ合わせてやっているんです。実はね、これ面白いのが、これは実は壁画の全部  
じゃなくって、一部なんです。ほんとはもっと大きくって、その切り取られた部分  
もあるんですね。

レポーター：そこにもまた歴史が描かれているんですよ。

学芸員：描かれていたんですよ。

レポーター：どんな絵が描かれていたのかすごく気になります。

学芸員：ね。でも、まあそれは秘密にしときましょう。

レポーター：まずはこの絵を見に来て、フィリピンの歴史をたどって、こういう文化  
があつたんだと感ずることができる、というわけなんですね。

学芸員：そうですね。タイトルもこれは、教育による進歩っていうフィリピンの教  
育の大切さ、であるとか、フィリピンの国の歴史の成り立ちっていうのを説明する

ような作品で、そうそう、これを注文したのが、フィリピンのマニラにある教科書出版会社の社長さんです。なので、カルロス・フランシスコという画家なんですけど、こういう絵を描いてください、という風にして、お願いして描いてもらった絵なんです。

レポーター：その作家さんがまさか壁に描いて、それはなぜ壁に描いたんですか。

学芸員：それはね、実はこの人は壁画、もちろん絵も描くんですけど、壁画でもすごく有名な人で、実はかなり有名な画家さんなんですね。で、昔、マニラで万博があったんですね。その時に、そうだなあ、もう、すごくずーっと、広場にだあってでかい何十メートルかあるような壁画を描いたことがあるような、まあ、国民的な画家。だから彼にとってはこんなまあ、ちっさい方ですね。

レポーター：そうなんですね、こんなに大きいのに。

学芸員：結構さっさっさと。描いちゃうみたいですね。

レポーター：なんだかこう、歴史もわかり、またこう壁に描いたと新たな発見もあり、とっても面白い作品ですね。

学芸員：はい、これを機会にフィリピンを勉強してください。

レポーター：はい、わかりました。頑張って勉強します。ありがとうございました。

学芸員：はいどうも。